

第2回朝来市総合計画審議会報告事項 (人口指標の状況、対話の振り返り、若者の価値観)

人と人がつながり
幸せが循環するまち

～対話で拓く朝来市の未来～



企画総務部総合政策課

1.人口指標の状況

2.第1回・第2回あさご未来会議、

若者を対象とした対話などの振り返り

3.今年度の対話から見えた若者・高校生の価値観



1.人口指標の状況



1.人口指標の状況（朝来市における人口政策の変遷（第2次総合計画以降））

朝来市のまちづくりの歩み

■第1次朝来市総合計画（平成19年度～平成28年度）

人と緑 心ふれあう 交流のまち 朝来市

- 合併によるスケールメリットを活かしながら、一体感あるまちづくり
- 地域協働・地域自治システムの構築による**市民自治のまちづくり**

■朝来市自治基本条例の制定（平成21年度）

- **市民が主体**となった**市民自治のまちづくり**を確立
- まちづくりの基本原則：「参画と協働」「情報の共有」「自律と共助」

人口減少問題への対処の必要性

■第2次朝来市総合計画（平成26年度～令和3年度）

あなたが好きなまち・朝来市

- 人口政策を最重要課題と位置づけ
- 人口が少なくなっても**市民が幸せに暮らしていけるよう地域力の維持・向上**

■朝来市創生総合戦略（平成27年度～）

- 一人ひとりが大切な存在
「ひと」が朝来市創生の基盤
- **「対話」と「協働」**を大切にしながら取り組む

1.人口指標の状況（朝来市における人口政策の変遷（第2次総合計画以降））

■第2次朝来市総合計画後期基本計画策定時の人口推計

	基準国調	2015（H27）	2020（R2）	2030（R12）	2050（R32）
後期基本計画策定時推計（独自推計）	H27	30,805人	28,301人	24,690人	17,268人

（参考）旧町ごとの人口推移（国勢調査）

国勢調査実施年度	H17	H22	H27	R2
生野町	4,716人	4,221人	3,759人	3,450人
和田山町	16,792人	16,200人	15,490人	14,873人
山東町	6,203人	5,932人	5,549人	5,221人
朝来町	7,080人	6,461人	6,007人	5,445人
合計	34,791人	32,814人	30,805人	28,989人

■第2次朝来市総合計画後期基本計画策定時の人口指標と重要視したこと

- 15歳－49歳の社会減少率
5年で10%抑制
- 25歳－29歳の回帰率（回復率）
回帰率10%↑
- 19歳－44歳女性の出生率
出生率10%↑
- 65歳－90歳の生残率
生残率1%↑

将来を見据え、**地域力の維持向上**に向けて取り組むことで、今よりも人口が少なくなっても市民が幸せに暮らしていくために

21世紀の中頃
20,000人

■第3次朝来市総合計画で設定した人口目標

2015（H27）	2021（R3）	2029（R11）	2050（R32）
30,805人	28,500人	26,300人	20,000人

考え方を引き継ぐ

→第2次総合計画後期基本計画策定時の人口推計を引き継ぎ、**地域力の維持向上のため**に人口目標を設定。
また、**ただ人口増を目指すのではなく、市民一人一人が幸せに暮らしていくことを重要視**した。

1.人口指標の状況（人口指標の現状）

■将来推計人口 過去の推計値と直近推計値の比較（抜粋）

推計内容	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和32年 (2050)
第3次朝来市総合計画で設定した人口推計 社会移動率10% ↑ 出生率10% ↑ ※第2次朝来市総合計画後期基本計画、第3次朝来市総合計画策定時の人口目標設定根拠	30,805人	28,784人	20,005人
独自推計① 社会移動率10% ↑ 出生率10% ↑ 等向上 ※①の考え方に、R2国勢調査を反映したもの	30,805人	28,989人	19,500人 目標値比 ▲500人
社人研推計 (R5.12) ② 標準型	30,805人	28,989人	17,400人 目標値比 ▲2,600人

1.人口指標の状況（朝来市は消滅可能性自治体？）



朝来市は無くなるの？

1.人口指標の状況（朝来市は消滅可能性自治体？）

平成26年5月に日本創生会議は、2010年から2040年までの30年間に若年女性人口が5割以上減少する市区町村を「消滅可能都市」として発表。

→全国1,799自治体のうち、896自治体が該当（※朝来市も消滅可能都市に該当）

令和6年4月に人口戦略会議は、2020年から2050年までの30年間に若年人口が5割以上減少する市区町村を「消滅可能性自治体」として発表。

→全国1,729自治体のうち、744自治体が該当（※朝来市も消滅可能性自治体に該当）

※若年女性人口…20歳～39歳の女性人口

■各市町の若年女性人口の減少率と変化

	若年女性人口減少率		前回との比較
	平成26年5月時点	令和6年4月時点	
朝来市	▼63.5%	▼53.6%	9.9%改善 
養父市	▼58.3%	▼58.1%	0.2%改善 
豊岡市	▼48.8%	▼49.9%	1.1%悪化 
丹波市	▼50.4%	▼48.7%	1.7%改善 
福知山市	▼44.2%	▼28.1%	16.1%改善 

1.人口指標の状況（若年女性人口の減少状況と20、30年後への影響）

■各推計ごとの総人口、出生数、若年人口の割合

総人口

推計	2050（R32）
独自推計①	19,523人
社人研推計（R5.12）	17,514人

出生数

推計	2050（R32）
独自推計①	136人
社人研推計（R5.12）	88人

※各推計0～4歳の数値を5で割り、算出。端数は切捨

若年人口

推計	項目	2050（R32）
独自推計①	若年人口	2,896人 (14.8%)
	男性	1,485人 (15.3%)
	女性	1,411人 (14.4%)
社人研推計（R5.12）	総人口	2,194人 (12.6%)
	男性	1,153人 (13.6%)
	女性	1,041人 (11.6%)

- ◆ 人口政策を最重要課題として取り組んできた成果が出てきている。
- ◆ 総人口、若年人口が減少していることは、朝来市に限ったことではないが・・・
- ◆ 継続して、人口政策に取り組み、若者に選んでいただけるまちをめざす必要がある
- ◆ 若者に住み続けていただかなければ、次の世代はさらに減少することが予測される

2.第1回・第2回あさご未来会議、 若者を対象とした対話などの振り返り



第3次朝来市総合計画の将来像・ありたいまちの姿と政策指標・人口指標の関係性

朝来市に暮らす市民一人一人が、自己実現と成長、人や社会とのつながりを感じ、幸せを実感することが、次なるまちの動きをつくり、新たな幸せを創出し幸せの循環を生み出します。そのことが「将来像」の実現につながります。
それにより、朝来市に住み続けたい、朝来市に住んでみたいと覚悟することにもつながり、人口減少の抑制につながります。

前提

- 市民ひとりひとりのWellbeingの向上 **将来像（政策指標）**
- 地域力の維持・向上そのための人口維持 **人口指標**
- まちづくりを進めるうえでの大切な考え方のひとつに「**市民一人一人が主役**」が位置付けられている



人口指標の考え方を踏まえると…

20、30年後においても地域力を維持・向上しながら効率的な行政運営を行うためには、若い世代に朝来市を選んでもらう必要がある。

若者一人一人の幸せ

若者がどうありたいかに焦点を当てて重点政策を

開催趣旨

- ◆ 将来像の実現に向け、現状を踏まえた後期基本計画を策定
- ◆ 朝来市が重点的に取り組む内容を明確にするにあたり、
軸となる『20～30年後も大切にしたい朝来市の価値』の確認
- ◆ 大切にしたい朝来市の価値や、人口指標の現状を踏まえて、
具体的な取り組みについての対話

回	テーマ
第1回	子どもたち、孫たちにもつなぎたい朝来市の良いところ
第2回	若い世代、子育て世代が住み続けたいと思えるまちにするには？

2.第1回・第2回あさご未来会議、若者を対象とした対話などの振り返り (令和6年度あさご未来会議、あさごオンライン未来会議の振り返り)

■あさご未来会議

回	日時	場所	参加者数
第1回	10月20日（日） 10時～12時	あさご・ささゆりホール	78名 ・一般、学生：44名 ・お子さん：2名 ・職員：32名
第2回	12月1日（日） 10時～12時	さんとう緑風ホール	72名 ・一般、学生：38名 ・お子さん：3名 ・職員：31名

■あさごオンライン未来会議

期間	テーマ	意見数
9月25日（水）～11月24日（日）	上記あさご未来会議と同じ	53件 (朝来市出身大学生に直接送付、隣保回覧、 フェイスブック、HP、LINEなどで周知)



2.第1回・第2回あさご未来会議、若者を対象とした対話などの振り返り (若者を対象とした対話の振り返り)

これまで、さまざまな施策を考えていく上で、「子育て世代」「高齢者」などの皆さんと対話しながら、各施策に取り組んできましたが、18歳から30歳くらいまでの皆さんと対話したり、意見をいただく機会が少ないことが分かってきました。

開催趣旨

テーマ／若者の本音を聴く ～朝来市のここが好き、もっとこうだったらいいな～

20～30年後においても朝来市のまちづくりを担っていただく若い世代の皆さんの意見を伺い、これからも住み続けたくなる朝来市にするために大切にしたい若者の価値観について話し合いました。

日時	場所	参加者数
11月23日（土） 14時～16時	山東生涯学習センター3階大会議室	26名 ・企業依頼：13名 ・無作為抽出：8名 ・職員：5名



和やかな雰囲気の中、10年後の自分たちの幸せとともにある朝来市の暮らしについて対話する若者たち

2.第1回・第2回あさご未来会議、若者を対象とした対話などの振り返り (第1回あさご未来会議の振り返り)

テーマ／子どもたち、孫たちにもつなごいたい朝来市の良いところ

家族・仲間

家族と仲間と楽しく
(健康、お酒、集まり)

子ども～高齢者まで
安心して暮らせる

子どもが帰ってこれるまち
(仕事、交通)

つながり

若い人も外から来た人も
つながれる

地域のつながり
(話し合える場、交流の場)

地域のコミュニティ活動の
つながり

関係性・つながり

関係性・支援体制

後押し、応援
役割がある

自分を気にかけてくれる人がいる
→地域のみんなから
愛されていると感じる
→個性を認め合う

自然環境

自然の豊かさ
のどかさ

親しめる自然、自然・共生
(川遊び、子どもが遊べる)

2.第1回・第2回あさご未来会議、若者を対象とした対話などの振り返り

(第2回あさご未来会議の振り返り、若い世代・子育て世代が“住み続けたくなるまち”に向けた課題)

地域

- 世代に偏りがある、世代交代が進まない
- 若い世代が参加しにくい組織・仕組み・取り組み
- 多様な意見（女性・若い世代）を引き出すことができていない
- つながる場・きっかけがない
- 地域情報が伝わってこない

学校

- 学校や習い事の選択肢が少ない
- 学生が少なく部活動や友人関係が限定される
- 大学がないため都市部へ出ないといけない
- 通学が不便

職場

- 仕事の選択肢が少ない
- どんな仕事があるか分からない、知る機会がない
- 若者世代が少ない、同世代がいない
- 人手不足
- 男女差による弊害（職種など）

子育て環境

- 共働きがしやすい子育て・職場環境が整っていない（周囲の理解、産休育休の取りやすさなど）
- 子育て支援が、核家族や共働きを想定できていない
- 子どもの遊び場がない（公園、雨の日の屋内遊戯施設など）
- 豊かな自然を活かした遊び方が分からない
- 医療機関が不十分（産科、小児科など）

その他

- 農地・山林を守っていく人材がいない
- 公共交通が不便、車がないと不便
- 若い人・単身者が住みやすい住宅が少ない
- 娯楽施設が少ない

3.今年度の対話から見た

若者・高校生の価値観



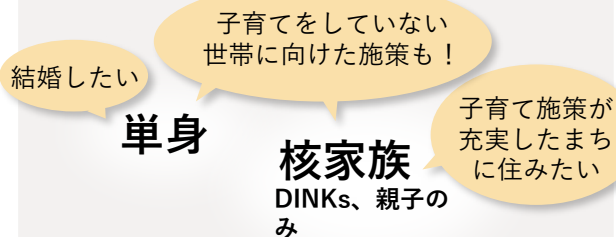
3. 今年度の対話から見た若者・高校生の価値観

意見： 20代～30代
※出身または
在住者意見

高校生

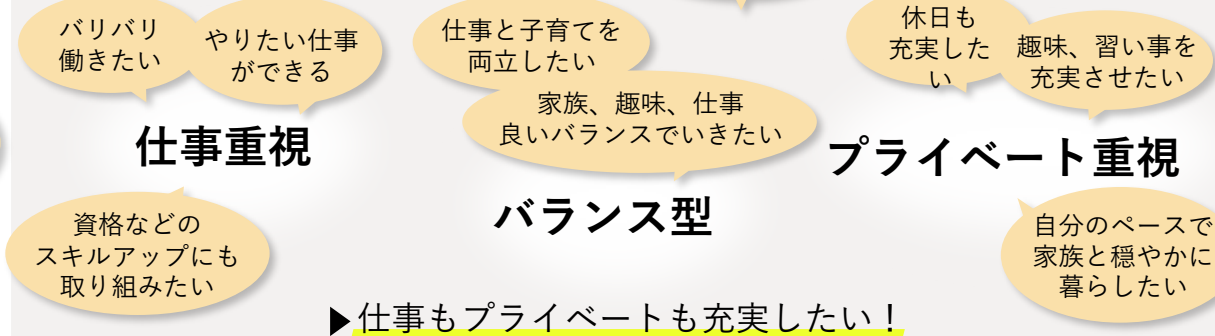
あなたはまちの未来
ASAGOing

家族のかたち



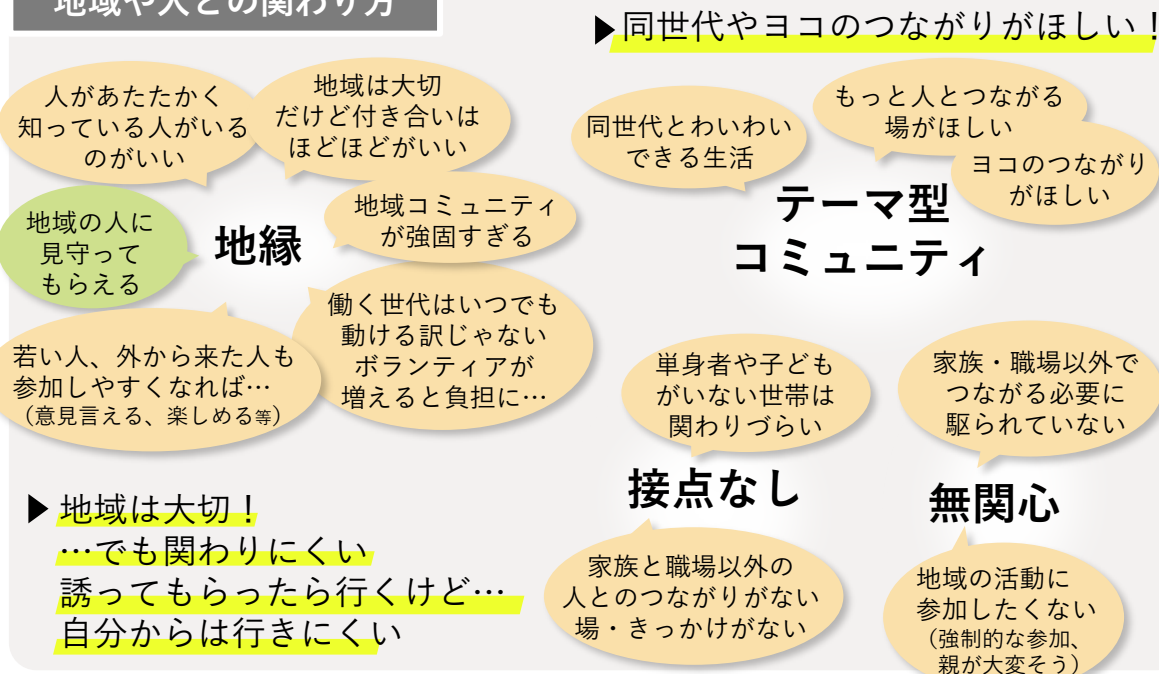
▶ 単身や核家族など世帯のかたちが多様化している

生き方・暮らし方



▶ 仕事もプライベートも充実したい!

地域や人との関わり方



▶ 地域は大切!
...でも関わりにくい
誘ってもらったら行くけど...
自分からは行きにくい

対話

若い人の意見が言える場が大事
決定に若い人も関わられるように!!

学び

学校で地域の人や地域と関わる学びがあり楽しい
地域との関わりがあるのが嬉しい
部活動の選択肢が少ない

▶ 地域での学びは楽しい!

情報

地域情報が入りづらい
ネットだけでなく人からつたわる情報が大切
大変そう... 面倒くさそう...
イメージ先行
子育てしにくそう 仕事なさそう...

人と人がつながり 幸せが循環するまち

～対話で拓く朝来市の未来～



企画総務部総合政策課